ランチョンセミナー３

5月16日（土）　12：20 ～ 13：10

第４会場　福岡国際会議場 2F（203）

POCTを院内で運用するポイント

講演者：坂　本　秀　生（神戸常盤大学保健科学部　医療検査学科　教授）

司　会：登　　勉（三重大学　名誉教授）

共　催：ニプロ株式会社

臨床検査に関することは臨床検査室が管理することで信頼される。Point-of-Care Testing; POCT で行う検査も同様で、臨床検査室が POCT に積極的に関わると効果的に運用できる。本セミナーではそのポイントとなる点を幾つかの項目に分け述べたい。

POCT の管理

検査室外にある POCT 装置・試薬も、検査室が主となって管理することが必須である。その過程で中央検査室との関連性はもちろん、設置場所、使用装置・試薬、台数、使用者の把握も可能となる。また、POCT 装置・試薬の一元管理を通じ、試薬の同一ロット確保、ロット間格差に起因する混乱防止、在庫管理から期限切れ試薬の抑制等を通して無駄な支出を省くことも可能となる。

使用者トレーニングの重要性

装置・試薬の精度が保たれたとしても、正しく使用されなければ信頼出来る値は出せない。POCT 機器の使用者は臨床検査スタッフ以外が圧倒的に多く、全使用者に正しく測定してもらうために教育が重要となる。教育と述べると大げさだが、測定方法、記録方法、トラブル対処法などを含んだ手順書（標準作業手順書：SOP だとさらによい）の作成、手順書に沿った使用者へのトレーニングである。

組織的運用の有用性

POCT 導入や管理を臨床各科が単独で行うと、管理に関わるスタッフの負担、消耗品の重複購入、出納管理の不備による無駄な支出が起こりかねない。そこで POCT の管理は診療科や看護ステーション等で独自に行わず、責任の所在を明確にして組織として運用すると効果的である。

POCT を組織的に運用するため POCT 運営委員会等を発足し、臨床検査室代表者、使用者として看護師や医師、出納管理として事務部門からも加わってもらい、総合的判断を行えるようにする。このようにすると、組織的な費用効果、効果的な人材活用など総合的に POCT 導入効果を判断可能となる。

まとめ

POCT を語る際に費用面が話題になるが、単一検査に関する費用だけに目を向けるのでなく、組織的に運用し総合的に導入効果を考慮することが大事である。本セミナーでは臨床検査技師に期待される話を含め、具体例の紹介から、POCT を院内で運用するポイントを掴んで頂ければ幸いである。